

## [019]九州大学産学連携センター年報 : 19

<https://doi.org/10.15017/1263081>

---

出版情報 : 九州大学産学連携センター年報. 19, 2013-11-01. 九州大学産学連携センター  
バージョン :  
権利関係 :



#### 4 . 1 デザイン総合部門の目標

産学連携センター各部門共通の目標として、先端芸術科学技術分野および新しい学際的融合分野において高度な産業技術シーズの創出を行うと共に、産業化を狙った産学連携プロジェクト研究を企画・推進する。その中でデザイン総合部門では、高次のデザインの実践的研究を通じた「技術の人間化」を目指す芸術工学分野、感性と技術シーズの産業化に資するデザイン分野、自然的にも社会的にも持続可能な環境の計画・設計に資するデザイン分野などを基盤とした産学官連携プロジェクト研究のコーディネートおよび企画・実施を図ることを目標としている。

#### 4 . 2 デザイン総合部門事業及び研究・企画とその推進

##### 4.2.1 概要

九州大学知的財産本部とも共同し、高次のデザイン分野における産学官連携による共同研究等の推進、キャンパス・インキュベーション活動等を総合的に推進する。

そのため、「環境・工業製品・音・画像・情報」を対象とした高次のデザイン分野を扱う芸術工学研究院とも協調し、「人間科学・視聴覚メディアコミュニケーション・環境遺産・コンテンツクリエイション・デザインビジネス戦略」といった学際的領域における高次のデザインの実践と発展に資する産学官連携を推進する。また、高次のデザインの産学官連携の促進に関わるシーズのデータベース化と啓発に取り組む。

##### 4.2.2 平成 24 年度の活動実績

###### ○部門の研究施設設備による活動

- ・デザイン総合部門の産学連携による共同研究の推進につとめた。
- ・デザイン総合部門棟 4 階の 4 室をレンタル・ラボとした。

###### ○共同研究事業による活動

九州大学日本芸術文化資料庫事業に関連する客員教授等との連携活動を継続した。  
科学研究費補助金等への研究費獲得努力も継続しつつ、平成 20 年度「科学研究費・研究成果公開促進費データベース（課題番号 208002）」に採択された分の継続研究資料作成を継続した。

印刷技術企業と連携し、その成果をマルチメディア作品として制作する共同研究・共同開発を継続した。「黄金と侘び（桃山期）」（脚本・資料提供：吉良文男研究員）「和漢混交（平安期）」（脚本・資料提供：内田篤呉客員教授）というテーマで試作作品を 2 点制作し、発表準備を行っている。

東京大学空間情報科学研究センター、東京大学総合研究博物館等、空間情報科学研究者らと様々な先端的研究に関する討論を重ね、東京大学総合研究博物館の新しい展示計画や、空間ナビゲーションシステム等の新しい研究的試みや開発に関わった。

これからの新しい生活環境を創出する理論と試みの事例をまとめ、「建築環境設計における発見・発想・試行をコントロールする方法論」を研究成果として公刊（平成 23 年度）し、その成果の評価研究を継続した。

デザイン総合部門の村上晶子客員教授との共同研究によって、ヨーロッパの文化・文明に基礎を置く「キリスト教会」の設計理論と設計実践成果を「12 の祈りの空間 - 教会への希求」として公刊し、その成果の評価研究を継続した。

#### ○ 関連学会活動

第 10 回大会産学連携学会の開催（平成 24 年 6 月 14 日、高知大学）を支援し、産学連携学会誌「産学連携学」第 9 巻 1・2 号を刊行した。また、学術シンポジウム等の実施を支援した。

産学連携学会・認定講習第三期シリーズを、九州大学産学連携センター・デザイン総合部門が中心となり、次のように企画した。

- ・ 産学連携学会・認定講習第三期第 12 回 平成 24 年 6 月 29 日  
九州大学東京オフィスにて開催 / 第 1～2 講座 + ワークショップ
- ・ 同 第三期第 13 回 平成 25 年 1 月 12 日  
長崎大学にて開催 / 第 1～4 講座
- ・ 同 第三期第 14 回 平成 25 年 2 月 5 日  
九州大学東京オフィスにて開催 / 第 1～2 講座 + ワークショップ

産学連携学会・学術シンポジウム（平成 24 年 12 月 4 日）を、野村證券株式会社大手町本社ビルにて開催した。本シンポジウムでは、新たなイノベーションモデル構築における金融機関が果たす意義を、基調講演、事例発表、パネル討論を通して探った。参加者は 148 名であった。

産学連携活動の成果から生み出される知的財産の研究を深めるため、次の学会等に参加した。

- ・ 知財学会（平成 24 年 12 月 8・9 日、第 10 回大会（大阪工業大学））
- ・ ベンチャー学会大会（平成 24 年 11 月 10 日（武蔵大学））
- ・ 経営情報学会大会（11 月 18 日（金沢工業大学））
- ・ 最高裁判所（知的財産高等裁判所所属）・知的財産専門委員活動（11 月 28 日実施の専門委員研修会）
- ・ 「産学連携・知の生産体制」等に関する文部科学省主催審議会（11 月 12 日）  
デザイン・芸術系の研究を深めるため、次の学会等に参加した。
- ・ 日本建築学会（平成 24 年 9 月 12～15 日）：2012 年度日本建築学会大会（東海）学術講演会（名古屋大学）のシンポジウム等で意見発表および学術講演とセッションの座長を行った。また、計画基礎系運営委員会および情報設計委員会の幹事として、多くの研究活動の企画・運営を行った。
- ・ 日本インテリア学会：理事・広報委員長、九州支部長として日頃の学会活動推進に努めた。
- ・ インテリアコーディネーター協会活動：インテリア実務の振興について、インテリア文化の普及と資格者・職能者の資質向上に貢献した。福岡県インテリアコーディネーター協会会長および九州インテリアコーディネーター協会協議会会長としても、上記の実現に尽力した。一部については九州大学社会連携事業助成（委員長：安浦寛人副学長）を引き続き受けて活動している。
- ・ 日本インテリアコーディネーター協会協議会（平成 24 年 11 月 20 日に設立）
- ・ 環境設計学会：平成 25 年 4 月 27 日開催のシンポジウムに向けた準備に努めた。

#### ○ 学会活動へのその他の貢献

科学研究費補助金 系・分科・細目表に、「産学連携・知的財産（学）」を項目名として入れるべく、さまざまな努力を継続した。

福岡県中小企業家同友会産学連携部会 F A S T と連携し、デザイン産業振興論・産学連携によるデザイン知的財産創出・産学連携知的財産原論、等々を講演および実地指導した。

本センター・デザイン総合部門の見学および説明会を開催した。

宮内庁管理の京都離宮・御所、あるいは文化遺産指定運動が行われている都城市民会館の見学会（計 4 回）および報告会（計 2 回）を実施した。

都城市民会館について、その保存再生活用プロポーザル・コンペティションを開催（遠藤勝勸前客員教授、内田篤呉・山岡嘉彌・村上晶子客員教授、菊竹雪ゲスト審査員）した。

## ○ 国立大学法人としての対外的活動

第 25 回国立大学法人共同研究センター専任教員会議開催（8 月 30 ～ 31 日、山梨大学）に参加し、主として各大学の産学連携・知的財産活動の見直し問題、および第 4 世代の産学連携活動（草の根イノベーション）その他について意見発表した。

産学連携センター客員教授による KASTEC セミナー（佐貫利雄客員教授）を 2 回実施し、学外からも多くのエコノミスト・地域開発関係者・知的財産関係者・経営者に参加聴講してもらい、研究成果の社会還元と、有効な研究交流を行った。また対外講演についても、多くの客員教授に助力を戴いた。

## ○ 教育関連活動

次の講義を実施した。

- ・「産学連携知的財産特論 1・2」九州大学大学院共通科目
- ・「産学連携・知的財産論」（箱崎キャンパス・伊都キャンパス・筑紫キャンパス・大橋キャンパス）
- ・高等教育機構・全大学院共通講座  
（前期）「産学連携・知的財産特論 - 1、2」の開講（箱崎等 4 キャンパス、4 ～ 7 月）  
（後期）「産学連携・知的財産特論 - 1」の開講（箱崎等 4 キャンパス、10 ～ 11 月）

## ○ 出版関連活動

- ・『建築の予言 - 設計を方向付け導くプログラムの概念』（日本建築学会刊行物）を出版企画した（編集委員会 10 回）
- ・「建築設計のための行く見る測る考える - 発見・発想・試行のフィールドとデザイン」（平成 23 年 11 月発刊）について、読者アンケートを実施した。
- ・「国立大学財務・経営ハンドブック 第 3 集」の関連機関への配布を継続した。

## ○ 普及啓発活動

「産学連携・知的財産活動の普及啓蒙・教育活動 - 中小企業経営開発講座」 / 「開物成務塾 - 中小企業経営・開発革新講座」（平成 20 年 9 月から実施）

次のように、中小企業経営者への啓発活動を継続した。

- ・「新製品・新事業開発」のワークショップ
- ・「産学連携・知的財産学」の講義
- ・「新開発のための思考操作法・発想法」 / 「我が国における産学連携・知的財産活動」の講義

- 社会発信活動

共同研究データベース「九州大学・日本芸術文化資料データベース創生事業」(奨学寄付金 0911000310 / 科学研究費・研究成果公開促進費データベース・平成 20 年度分採択・課題番号 208002 の継続作業を含む): 共同研究・公開資料作成・サーバーによる資料公開を継続した(サーバー公開/平成 21 年 11 月末、更新は随時)

「スクールビジット/出前講義・ワークショップ」: 独立行政法人・九州国立博物館、および福岡インテリアコーディネーター協会と共同し、建築の技術と文化を表現する建築模型展『市民建築文化展』を発展させ、各種学校や父母の会への出張講義およびワークショップとして展開した。この事業には、九州大学・社会連携事業資金(委員長: 安浦寛人副学長)から、学内事業予算を受けている。

#### 4.2.3 平成 25 年度の事業計画

- デザイン総合部門では、九州大学のデザイン活動の発展に資する産学官連携事業・研究を推進・支援するため、科学技術と芸術的感性を調和し、また総合することにより得られる高次の総合デザイン研究を基調とした産官学連携活動を広範に実施していく。そのために以下の内容の実現に努める。
  - ・ 環境、もの、画像、音、情報といった学際的分野におけるデザインおよび芸術系独自の産学連携共同研究の企画および推進。
  - ・ 自然科学系及び人文科学系を基礎とした高次の総合デザインに基づく産学官連携の横断型プロジェクトの企画および推進。
  - ・ 「産学連携学」の建設、および、デザイン学との融合および発展。
  - ・ 「産学連携・知的財産」領野の学内外における教育、人材育成の機会を企画。
- デザイン・芸術分野における産学連携・共同研究の推進、およびデザイン知財移転や関連キャンパス・インキュベーション活動の促進などを通じて、デザイン・芸術分野研究の発展的整理と産学連携を中心とした総合的推進に取り組む。
- 「産学連携学」の発展を、成果の若手研究者や一般社会への還元と知的再生産を促進する。また、「産学連携学」の大学教育への還元および大学教育の構造変革への寄与を行う。
- 産学連携学会活動に積極的に取り組む。また、「産学連携学会」「知財学会」「ベンチャー学会」「研究技術計画学会」「地域活性学会」で研鑽に努める。

- 社会や地方自治体が抱えるエネルギー問題や人口動態（高齢化）等の課題解決に寄与する包括的な環境政策および都市・地域に関わる分野との共同研究を模索し、社会に還元されるデザイン活動のマネジメントに努める。
- デザインに関する科学研究費補助金の獲得努力、「産学連携・知的財産」分野の研究助成の獲得に努める。
- センター・デザイン総合部門内の 1 フロアを、「レンタル・ラボ」スペースとして、学内のより広い研究活動支援に役立てる。そのため、レンタル・ラボの設備環境を整え、周知を図る。
- センター・デザイン総合部門棟内の複合環境シミュレーション室設備の利用・活用の促進に努める。